

琉球大学学術リポジトリ

米国管理下の南西諸島状況雑件 沖縄関係 国府の
沖縄帰属問題(2)

メタデータ	言語: 出版者: 公開日: 2019-02-14 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: - メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/20.500.12000/43846

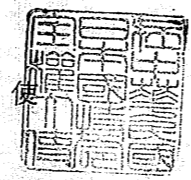
太田琉球主席の訓白

アジア局長
参事官
中国局長
外務省

台才1053号
昭和38年8月8日

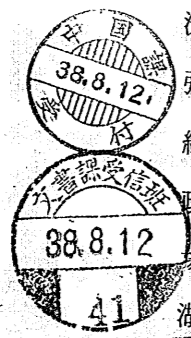
外務大臣臨時代理 殿

在 中華民國
木 村 大 使



琉球政府大田行政主席一行の来
台に関する件

さきに報告いたしておいた通り琉球政府大田行政主席一行ノ5名(別紙)は、当国政府楊経會經濟部長の招聘により8月ノ日来台し、2日蔣總統、張群秘書長、行政院王副院長、外交部朱部長代理、經濟部長等を往訪、3日飛行機にて台中に赴き省政府黄主席を訪問したのち、高雄に至り、砂糖工場、パイン工場を見学、4日大田主席外3名は澎湖島に赴き(大田主席はもと澎湖島庁長であつた



回 覧 簿 号
臺 中 1919

外 務 省

関係による)、他は引続き高雄の各工場を参観、同夜一行は台北に帰着した。3日には經濟部主催の中琉貿易懇談会に出席、貿易、観光、經濟合作の三部会に分れ中国側関係官と具体的討論を行なつた由であるが、蔣總統は關係中国側官憲に対し一行に対しては、あらゆる便宜供与方を特に指達した由で中国側の一行に対する熱のいれ方は非常なもので、同日の大田主席のカクテル・パーティには行政院長代理外、張群秘書長關係各部の部長、外交部長代理等も出席していた。(本使外館員も招待され出席したが米大使館からも大使を除く参事官、商務官等出席)

琉球国府両者間の具体的話合いの結果については、未だ発表されていないが、琉球側は中国側の要請により經濟局長を残し引続き具体的問題(米の購入問題も主題の一つである由)を討議させることとなり、大田主席以下は6日離台した。

なお、大田主席一行は2日本使を正式に來訪し、本使はその機会に一行に対し簡単なカクテル・パ

一テイを催し(外部のものは招待せず)懇談した、また、日当方参事官以下が主席を除く琉球政府幹部を非公的に招待した外は、一行の行事に対しては、中国側に一切任せ当館としてはこれに関与せぬ態度をとつておいた。

なおまた今回の大田主席の訪台に關聯し、琉球をめぐるわが方対米側及び中国側の微妙な關係を示す下記2つの事例附記する。

(イ) 沖繩米側当局は一行の訪台スケジュール中一行が時間の都合で米大使よりも先きに本使を訪問することとなつていたことに対し不満の意を表明した由である。

(ロ) 日大田主席が離台に際する記者会見において中国人記者が琉球の将来に対し質問したのに答え、琉球は日本の領土の一部である。琉球は米国の占領期間終了後は日本に復歸するであろう。琉球人が日本に歸るのは子供が母の許に歸るのと同じで極めて自然のことであると述べたことに対し、翌日の英字紙 China post は"Japan

May Annex Ryukyus when Us Occupation ends. とセンセイシ

ヨナルな多少意地悪な見出の下に同主席の談話を大きく報道した。

以上御参考までに報告する。

注
同
と
よ
こ
と

別紙添付

外 務 省

一 行 名 簿

大 田 政 作	琉球政府行政主席
大 田 昌 知	琉球政府内務局長
久 場 川 敬	琉球政府経済局長
与 世 山 茂	前琉球政府経済局長
並 里 亀 蔵	琉球政府法務局出入管理局長
船 越 義 彰	行政主席秘書官
新 城 鉄 太 郎	琉球政府計画局広報課広報係長
大 山 保 表	琉球大学教授 農学博士
嘉 教 昇	琉球経営者協会会長 琉球生命保険相互会社社長
竹 内 和 三 郎	琉球商工会議所会頭 沖縄食糧株式会社社長
国 場 幸 太 郎	琉球建設業協会会長 国場組総代表
仲 田 睦 男	琉球工業連合会副会長 琉球糖業振興会副会長
大 城 朝 亮	琉球鮪漁業連合会事務局長

外 務 省

伊 波 尚	沖縄タイムズ社編集局政治経済副部長
下 地 寛 信	琉球新生社編集局政治経済副部長